

教育方針	真理と正義を愛し、勤労を尊び、責任を重んじ、人間として調和のとれた、心身共にたくましい生徒を育成する。	重点目標	情理を尽くし、自ら考え、行動する生徒を育成する — 精神を修め、知と技を練る吉田高校 —
-------------	---	-------------	---

<マニフェストに関すること>

領域	評価項目	具体的目標	担当	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	よく分かり意欲を高める学習指導の充実	生徒の授業満足度平均3.6以上 (1から4の4段階評定)を達成する。 A : 3.6以上 B : 3.3以上 C : 3.0以上 D : 2.5以上 E : 2.0未満	A	生徒の授業満足度は、「授業評価アンケート」によると教師の行う授業に対しては平均3.8、生徒の自己評価も平均3.7という結果となった。目標の平均3.6を上回る結果となった。	昨年度に引き続き、高い授業評価のため、今の授業形態をさらに進化させ、ICT機器を使用するなどし、主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指す。
	学習習慣を定着させる課題指導の充実	平常時学習時間平均60分以上、 <u>検査時学習時間平均120分以上</u> を目指しながら、主体的に学ぶ力を付ける。 A : 60分以上 (検査時120分) B : 50分以上 (検査時100分) C : 40分以上 (検査時 80分) D : 30分以上 (検査時 60分) E : 30分未満 (検査時 60分)	B	平常時学習時間は、普通科62.4分、機械建築工学科32.2分、電気電子科48.0分、平均47.5分であり、 <u>検査時学習時間が普通科182.3分、機械建築工学科94.0分、電気電子科121.2分、平均132.5分であった。</u>	平常時の学習時間において、工業科が下回っている。観点別評価に各教科の評価方法が変わり、各教科、小テストや単元テストを行うことが増えてきている。その普通の授業の小テストの取り組み意識を変えていくように促す。
	読書習慣を身に付けさせるとともに地域の先人に学ばせる指導の充実	図書の間貸出冊数一人当たり3冊以上、朝読書年間45日以上の実施を達成する。 A : 45日以上 B : 40日以上 C : 35日以上 D : 30日以上 E : 30日未満	C	図書の年間貸出冊数一人当たり1.4冊 (R7.1月末)。朝の読書の日数は予定通り確保できた。	図書室で借りずに自分の本を読むという生徒の意見も多い。今後、生徒の実態に合った本も取り揃えていくようにする。
生徒指導	規則正しい学校生活を送らせる指導と健康教育の充実	①年間出席率平均98%以上②一か年皆勤率55%以上③年間欠席日数5日以上の者5%以内を達成する。 A : ①②③達成 B : ①②達成 C : ①③ D : ②③達成 E : ①②③未達成	E	①97.7%②35.8%③19.8%と、どの目標も達成することができなかった。皆勤者(率)は1年生27名(32.5%)、2年生36名(35.2%)、3年生42名(38.5%)と学年が下がるごとに低い結果になった。「学校を休まない」考えが伝わらない。	基本的な生活習慣の意識付けをし、保護者へも周知していく。欠席、遅刻の数値だけにとらわれず、心にゆとりを持たせる指導を心掛けていく。ただし、欠席数等は進路実現に大きく左右される要素になることを粘り強く伝えていきたい。長期欠席者数を0にする。
	挨拶・身だしなみ・交通等規範に関する指導の充実	①身だしなみにおいて重大指導案件数0件②校内携帯電話無断使用数3%以下③登下校時の交通事故0件を達成する。 A : ①②③達成 B : ①③達成 C : ②③達成 D : 1つ達成 E : ①②③未達成	D	①今年度より身だしなみ全体指導をなくした。頭髮については様々な形が見られるが、大きなトラブルはない。②21名(7%)ルールの遵守、意識改善が必要と思われる。③自転車同士接触事故2件	身だしなみや交通マナーについて、日々の生活の中で意識させる。着こなしセミナーや交通安全教室を通して意識の向上を図る。委員会活動を活性化させ、生徒の意識を高めていくことを継続して取り組む。
	部活動・学校行事の充実	①部活動加入率95%以上②県大会上位入賞、体育・文化部含め2部以上③生徒の学校行事満足度平均3.6以上 (1から4の4段階評定)を達成する。 A : ①②③達成 B : ①②達成 C : ①③達成 D : 1つ達成 E : ①②③未達成	B	①部活動加入率は96.2% (男94.6%・女97.8%) ②ものづくりコンテスト県1位・県2位、四国1位・3位、全国若年者ものづくり敢闘賞。炭酸ガス溶接の部県1位、四国大会1位。将棋部門県2位、全国大会出場。全日本U-18フットサル選手権大会県1位・四国大会出場。③学校行事満足度は3.5であった。	部活動の様子をホームページなどを通じて生徒の活躍を紹介する。生徒たちが自発的に活動し、楽しい学校生活になるように生徒会を中心に企画を充実させる。学校行事や部活動では地域とコラボした活動を増やしていく。

※ 評価は5段階 (A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
進路指導	生徒一人一人の適性に合った進路指導の充実	就職決定率100%、就職試験一次内定率100%、応募前職場見学会参加率100%、進学決定率100%、大学入学共通テスト出願10名以上、国公立大学合格者5名以上を達成する。 【決定率・参加率】 A：100%以上 B：95%以上 C：90%以上 D：80%以上 E：80%未満	B	就職試験一次内定率93.7%、応募前職場見学会参加率95.9%で目標を達成することはできなかった。就職試験不合格の原因は、欠席の多さや面接での対応力不足である。また、応募前職場見学会は、47名(延べ60名)の生徒が参加したが、求職活動から応募までの日程がタイトなため、参加したくてもできない生徒もいた。 大学入学共通テスト出願は19名(受験者16名)、国公立大学合格者は5名で進学決定率は100%と目標を達成できた。来年度に向けては、今年度より大幅に変更された大学入学共通テストに対応できる学力を付ける必要がある。	就職に関しては、出席不振などが不合格につながるため、日々の高校生活を充実させることで改善するであろう。就職試験だけ、その場で取繕っても通用しないことが明白となった。早期から継続して生活指導などをしなければならない。 進学指導に関しては、この数年間で劇的な変化が出ている。国公立大学への進学は、本校からは不可能であろうと思われていたが、継続して合格できるようになった。これは、日々の学習の積み重ねで得られたものである。この状況を継続できるかが、今後の課題である。
	インターンシップによる職業観育成指導の充実	インターンシップの満足度平均3.5以上(1から4の4段階評定)を達成する。 A：3.5以上 B：3.0以上 C：2.5以上 D：2.0以上 E：1.5未満	B	事業所の協力により、生徒が希望する事業所で進路に合わせたインターンシップを実施することができた。満足度は3.3と高い評価であった。	より充実したインターンシップ実施のために、事業所の確保・拡充、生徒の進路に応じた事業所の選定、事前指導の充実を行う。
人権・同和教育	いじめを許さない態度を育てる指導の充実	いじめ調査を各学期一回以上実施する。 いじめの未解決事例件数0件を達成する。	B	調査は年間3回実施することができ、何かあれば担当が早めの対応をおこなうことができた。些細な案件が毎回あったため、いかになくすかが課題である。	引き続き各学期1回は実施し、生徒の把握に努めるとともに、些細な案件や未解決事例もなくなしていきたい。
	人権委員会活動の充実	「人権だより」を年間6回以上発行する。 人権委員会の発表を年間2回以上実施する。 A：6回以上 B：5回以上 C：4回以上 D：3回以上 E：2回以下	A	「吉高人権だより」を毎月発行し、様々な人権問題を取り上げたり、集会で発表を行うことで人権啓発に努めたりするなど、自主的な活動ができた。	「吉高人権だより」や集会での発表は、更に充実した内容となるように努めていきたい。
	地域・保護者に開かれた人権・同和教育の充実	人権・同和教育ホームルーム活動を年間2回以上公開する。	C	公開授業は2回実施することができたが、参加人数は少なかった。特に2回目は2年生の修学旅行に伴う中間考査のため、1・3年次での実施であったため、参加者が少なかったと思われる。	生徒等にも呼び掛け、保護者の参加を促していきたい。HP等も活用し、外部への呼びかけも行いたい。
交流教育	地域でのボランティア活動参加を促す指導の充実	各種ボランティア活動への参加、一人平均2回以上を達成する。(校内ボランティアも含む) A：全員達成(100%) B：270人(90%)以上 C：240人(80%)以上 D：210人(70%)以上 E：180人(60%)未満 (全校生徒298人中)	E	1年生74.0%、2年生86.7%、3年生8.5%全体54%であった。クラス、学年で差がでた。動機付け、時間的な要素が原因だと考える。	継続して地域ボランティアや校内活動の機会を提供し、生徒一人一人が自発的に行えるようにしたい。ボランティアネットへの登録や、依頼のあったボランティアの紹介をより積極的にスムーズに行う。数値目標を可視化し、学校全体で取り組んでいきたい。
	地域の先人に学ばせ地域に貢献する心を育成する教育の充実	地域の福祉施設等での活動への参加者年間延べ200人以上を達成する。 A：200人以上 B：150人以上 C：100人以上 D：80人以上 E：100人未満	A	施設内での活動はできなかったが、地域の福祉施設に暑中見舞いと年賀状を送ったり、クリスマスリースや季節のお花をプレゼントしたりする形で交流活動を行った。交流を考えていた時期に感染症が流行しており、直接利用者さんに手渡しできなかった施設があった。	地域の福祉施設には大変喜んでいただいているため、交流の時期や交流活動の内容、交流の方法を含め、今後の充実した活動となるよう、検討したい。

※ 評価は5段階(A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
環境整備	公共物を大切に、環境保護に努める意識を育てる指導の充実	美化委員会による学期1回の校内点検を実施する。美化委員会の発表を年間1回以上行う。	B	校内点検は、学期に1回の定期点検の他、随時清掃後の清掃状況の点検を行った。不十分な箇所について声かけを行い、校内美化に努めた。美化委員の発表では、5月に体育館で実施し、ごみの分別方法などの説明を行った。	清掃方法・ゴミの分別を徹底し、更なる校内美化に努める。また、美化委員会の活性化に努め、環境保護の意識の高揚を図る。
	施設設備の安全点検と事後処理	施設設備の安全点検と事後処理を、全教職員の協力のもと適切に実施する。	B	学期に1回、年3回の定期点検の他、随時点検を行い、改善が必要な箇所については予算面で可能な限り対応できた。	安全点検を確実にを行うため、目的の周知を図る。また、施設の老朽化による異常箇所に対して、随時点検の実施や連携を行うことにより、素早い改善ができるよう努める。

<マニフェスト以外に関すること>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
教育相談・保健活動	教育支援的な相談体制の確立	生徒が気軽に相談できる体制を整えるとともに、教育相談窓口の周知に努め、教職員間の情報共有や、スクールライフアドバイザー、外部の関係機関等との連携により、生徒の不安や悩みに対応していく。	B	スクールライフアドバイザーへの相談人数は7名で、人数は少なかつた。しかし、不安や悩みを聞いてもらうことで、気持ちが落ち着く生徒もあり、しっかりと対応することができた。	今年度2学期より、毎月1回スクールソーシャルワーカーの訪問が始まったので、スクールライフアドバイザーと併用して活用していきたい。また、生徒や保護者への案内、呼び掛けも引き続き行っていきたい。
	健康教育・保健活動の充実	健康に関する講座の実践や「保健だより」の発行により、生徒の健康意識の高揚を図るとともに、生徒が主体的に行動に繋がれるよう生徒保健委員の活動を充実させる。	B	性教育講座や心と体のサポート講座などを、外部機関から講師を招き開催できた。また、保健だよりを毎月発行し、ホームルームでその時期に合った内容の啓発を行うことができた。	引き続き生徒の健康意識を高められる機会の提供や啓発により、生徒が行動に繋がれるよう、生徒保健委員の活動を充実させ、教職員間でも連携を図って生徒に呼び掛けていく。
工業教育	ものづくりを通した人づくりの展開	地域産業との連携を図り、見学や体験学習を通して実践力と人間力を高める。 工場見学年5回以上、匠の技教室等を年30回以上実施する。 ものづくりコンテスト四国大会、全国大会の出場を達成する。 A：30回以上(見学5回) B：25回以上(見学4回) C：20回以上(見学3回) D：15回以上(見学2回) E：10回未満(見学1回)	B	工場・現場見学は、6回(M科3回E科3回)。匠の技教室は6業種延べ20回実施した。それにより資格の取得や実践的な学習につながった。 高校生ものづくりコンテスト、若年者ものづくり競技大会で、四国大会、全国大会に出場し、上位に入賞することができた。	工場見学や匠の技教室を多く実施することで、生徒が興味関心を持ち、将来の地域産業スペシャリストとして活躍できるよう今後も指導を継続する。 ものづくりコンテストでは、次年度も四国大会、全国大会への出場を目指して、指導を継続していく。
P T A 活動	協体制のとれたP T A諸活動の実施	P T A諸活動(総会、交流会等)を保護者と協力して適切に行う。P T A理事会参加率70%以上を達成する。 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：55%以上 E：55%未満	A	第1回理事会参加率が、P T A役員・理事の方々、教職員ともに、88%であった。委員会活動についても活発な話し合いをしていただいた。また、一年を通して、体育祭や文化祭での受付や街頭指導、来年度の役員選出のための選考委員会等、会長を中心に結束していただき、充実した活動となった。	理事会役員の方々を中心に更に連携して、学校行事の充実を図りたい。
事務	経費の節約と円滑な事務処理の徹底	生徒・職員からの要望の早期実現に努めることで、より効果的な予算執行を行う。	B	県費需用費上半期執行率80.4% (前年度81.4%) 県費(公費)、私費ともに早期の予算執行を心掛けた。	物品購入希望調査等とおして要望を聞き、早期実現に努めることで、より効果的な予算執行を行う。
		職員間で連携し、適正かつ円滑な事務処理を行う。	C	概ね適正に事務処理を行うことができた。	職員間で日々連携し事務処理情報について確認及びダブルチェック等を図ることで、より適正な事務処理を行う。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間の適正化を図り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	教職員の業務効率化に対する意識を向上させ、「テレワーク」の積極的活用を実施した。勤務時間外在校等時間が長い職員に対し面談を行った。	業務効率化とともに、教職員のウェルビーイング向上のための「テレワーク」の活用を含め、勤務時間の適正化の提案を進める。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的に行い、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	ヨガ講座を実施したところ、多くの参加者から身体的疲労の軽減や改善につながったとの反響が予想以上に大きかった。	健康講座や健康相談を継続する。

※ 評価は5段階(A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)とする。